



鬼たちは怖い顔とは正反対で腰が引けていました。相当やさしい家庭で育った鬼たちだと記者は思いました。来年はムキムキマンのようなデツカイ獰猛な鬼を呼んでくる必要があります。

節分豆まき大会——鬼も苦勞しますデス。

二月三日にデイサービス八重桜では、豆が詰まった布の袋が鬼めがけて飛び交いました。

鬼たちの出演準備中に「福笑い」をしました。

「目隠ししているから『左』や『右』や『上』やと、みんな無責任にアドバイスするのヨ！」

「お蔭で俺のお多福さんの顔はゆがんじゃったじゃない…の。」



「九十九歳の女性詩人の世界」

詩集『くじけないで』（著者・柴田 トヨ 飛鳥新社）のご紹介

明治四十四年に生まれた柴田トヨさんは九十歳を過ぎて、息子さんのすすめで詩を書き始められました。栃木県宇都宮市に住んでおられて現在九十九歳ですが、最近ではテレビなどで毎日のように紹介されて、全国の多くの人たちにやすらぎや元気を与えて下さっています。

左の詩は平成二十年十一月に創作された詩『貯金』です。詩集のお値段は九五二円＋（消費税）この詩集を各八重桜の図書棚に用意しました。一度ぜひ手にとって見てください。

施設長 綾部 俊治



貯金

私ね 人から
やさしさを貰ったら
心に貯金しておくの
さびしくなった時は
それを引き出して
元気になる
あなたも 今から
積んでおきなさい
年金より
いいわよ

馳せ走る

食の匠

のひとりごと

西勝康

日本料理には四季折々の季節感を表現する献立があるのが特徴です。様々な制約がある「介席膳」のなかでもそのことを念頭において毎回献立に頭を悩ませるのも、「また楽しからずや」です。（左写真は前菜のみ）



第十三回 介席膳メニュー

前菜 ツナ豆腐
ひき肉と馬鈴薯の
玉子巻き
煮豆寒天寄せ
こはだ卵の花和え
焼き塩鮭
菜の花酢みそ
梅干
主菜 かぶらと鶏団子の葛煮
副菜 茶碗蒸し
汁 白菜と厚揚げの味噌汁
フルーツ バナナ・みかんゼリー



稲場 克充様（左）お隣は前田 裕様

「介席膳」の味と量は如何でしたか。とのお尋ねに「いつも最高です。注文などありません。文句をつけたりしたら『三味線屋の娘になる』...」と。それはどういう意味ですか、とお尋ねしましたら「知らないの？パチがあたるといいう意味だよ！」ですって。多芸な稲場氏の話芸も冴えていましたデス、ハイ。



待望のイチゴが赤くなりました。

温室で育てたイチゴ「さちのか」が冬のデイガーデンで赤く育ちました。温室では陽光以外は、特に暖房はしていませんが、いくつものイチゴが色づいています。外部の花々も元気です。

施設長 窪田 昌剛



音楽療法の日——二月七日

大正九年にお生まれになった水島勉さん「昔は、ピアノを弾いていたんだ。一曲童謡でも聞かせよう。」

と鍵盤に向かわれました。味のある懐かしい曲がありました。スタッフ一同、感謝です。

音楽指導の

岡本美代子先生(右)

左は、スタッフの

野口朱美さん



ソシオエステティック

「デイ&ナイトサービス八重桜」でもソシオエステティックを始めました。

2月より、デイ&ナイトサービス八重桜でもソシオエステティックが始まりました。最初は利用者様も何が始まるのかと…不思議そうに眺めておられました。施術風景をご覧になり、すぐに納得…もちろん女性の方が一目瞭然で口々に「奇麗にしてもらえるの…」と、目をキラキラ。とても楽しい雰囲気の中で施術をすることができました。利用者様の中には勧められてとても恥ずかしそうに断られる方もいらつしゃいますが、実際にトリートメントを受けている姿をご覧になり「次の機会にお願い」とおつしゃる方も多かったです。

男性の利用者様は横を通り際に「きれいになるんか?」と笑顔でお声掛けをされます。ソシオエステティックは施術を受けている方だけのものではなく、見ていらつしゃる周りの方も楽しく参加できるものなのです。

ソシオエステティシャン 李清美



給食小委員会が発足しました。

デイサービス八重桜には接遇小委員会、全美化小委員会、新聞・レクリエーション小委員会がありました。この度新しく給食小委員会が発足しました。

三月から頼もしい調理師が新しく給食組織に参加し、設備の充実も図っています。「遠赤外線温蔵庫」が導入され、ホッカホッカの物菜や汁を召上っていただけになりました。



綾部 俊治

長谷川 美紀

委員長

中井 千華

西勝康

温かい食事を提供するための新しい設備が入りました。「遠赤外線温蔵庫」です。「ほっかほっかで、熱いわヨ:気をつけて。」「また後姿で写すのかヨ!オコルデ」

柴田 泰子主任 左は渡部 ミカ主任



デイ&ナイト八重桜(西九条町)では!

ドッグセラピーが大人気です。チョコちゃん(コト(古都)ちゃん)が参加してくれて大いに賑わいました。

施設長 藤本 勉

一月三十一日の一時半から二時半までみんなでゲームをしながら二匹のワンちゃんと触れ合いました。『昔、犬を飼っていたから犬大好きやネン。ワンちゃんの目をいつも楽しみにしています』

M・Nさん



「デイサービス八重桜」の弥生の
工作日の作品はおひな様でした。



おひな様が玄関に勢ぞろいして毎日お元気な皆様をお見守りして居ります。

デイ・ガーデンの二月十日はゴルフ大会

最初の一振りがホールインワンでした。
スタッフはビビりましたデス。



俳句教室発表句

(敬称を略します)

終に鰯の頭鬼やらい	稲場 克充
節分やのぼりの続く二月堂	清水 昌明
山すその蔭に咲きしも寒椿	北 ヒデノ
節分や歳の数だけ豆食べぬ	吉岡トミエ
ふきのとう春が来たねと手を叩く	大藪 キエ



坂谷 好美 (俳句教室担当)

(最近、見かけなくなりました。小さい頃怖かった)
(お水取りも今年で二二六〇回目。
お水取りが終わったら奈良にも春が来ますね。)
(雪から顔を出す鮮やかな紅色心が和みますね。)
(歳の数だけ食べるのは一苦労ですね。)
(お孫さんと一緒に手を叩いたのでしょうか。
春が来るのが楽しみです。)

八重桜の掲示板

デイサービス 八重桜

3月はひなまつり、ホワイトデーと行事が盛りだくさんです。旬といえば「鱈（さわら）」西京漬けの代表であり、栄養価の高い味噌とよく合い栄養の相乗効果を上げる食材として親しまれています。旬の食べ物を食べて元気に八重桜へお越し下さい。

デイハウス 八重桜

春間近。心ウキウキ・ワクワクしてきます。デイハウスも春のよそおいにみんなで作る春祭りをする予定。ウキウキ・ソワソワしても元はしっかりと！おかげさまでデイハウスは今日も元気です。

小規模通所介護 デイガーデン 八重桜

2月はたくさん雪が降り、デイガーデンの庭は一面の雪景色になりました。いちごが赤く色付いて、ご利用者の皆様の目を楽しませてくれていました。

「俳句・四句」作者／稲場 克充氏

鬼やら、春牙持らし大舎人
一族で大声上げて鬼やらい
八十路越へ吐き出せ福の豆
竹節分々悪鬼松と福の豆

ステイケア 八重桜

まだまだ寒い日が続きますが、陽射しも徐々に暖くなり木々が芽吹き始める季節になりました。季節の変わり目は体調を崩しやすいので、ステイケアでは空調の管理と体調のチェックをしっかりとし、春の陽ざしのように身も心も暖かく過ごしていただけるような環境を作っていければと思っています。

デイ&ナイトサービス 八重桜

2月3日節分の日 昼食に巻き寿司を頬張って頂きました。普段はご飯の量が少ない方もペロッと一本召し上げられました。もちろんその後は豆まきも。。14日はバレンタインデー。男性の利用者様にチョコをプレゼントするとなんととも言えない笑顔が印象的でした。20日はなんとカニ鍋の昼食でした。「久しぶりにカニ食べたわ！一杯呑みたいな?！」とこれまた満足気でした。今月は、食べ物の感想ばかりに。食欲はいつまでも大切です。

居宅介護支援事業所 八重桜

三寒四温といいますが、まだまだ朝夕の冷え込みがきついですね。寒い時は、温かいお風呂はいかがですか？ 私たちにも、「寒いから、どうしたらええ?」とよく質問があります。そんな時は、「温かいお風呂」を勧めています。「もちろん、デイサービスでね！温まりますよ…！」って。「特に“八重桜の風呂は…”」って。皆様に喜んでいただけるように工夫をしていますので、騙されたと思って是非ご利用ください。そして、感想をお聞かせ下さい。多分「ほんまに温まったわ…」との感想だと思いますが…。

生活に必要な情報をお届けしてまいります

写真のように、椀が自由に傾く高杯型で、陶器の特性が活かされた安定感と美しさが周囲を驚かせています。早崎氏の闘病生活の過程で生まれた新しい「道具」は多くの人びとに詩人「柴田トヨ」さんと同じように勇氣と生きる希望を与えてくれています。ありがとうございました。

発明者である早崎宏幸氏は当デイサービス八重桜の利用者のお一人です。平成十年に若くして脳梗塞を発症されて一年間の入院生活を経験されました。退院後はリハビリの一環で奈良総合福祉センターの陶芸教室で作陶活動を続けてこられました。

ハンディをもつ生活でこまったことは、食事の時に真下を向きながら茶碗に顔を近づけて飲食しなければならぬ不都合でした。そんな不便を改善するために、自から陶芸と結びつけて発明したのが、下の作品です。

白萩焼茶碗と素焼き置き台
ハンディキャップをもつ人のための傾く食器



水平位正面姿



手前に傾き始め姿



最高傾斜姿



最高傾斜側面姿



写真は
早崎 宏幸氏 (59 歳)

幻の神武天皇の墓―②

坂田 護

私の知人N氏の大叔父であるM氏が、送電線用の鉄塔建設地の調査に当時の薩摩電気から派遣されて、生まれ故郷の下甕島の郷里の裏山で信じがたい石碑と出会った。その石碑には「神武天皇御墓」と刻まれていたので、彼はその場で腰を抜かしたという。これは実話である。

M氏は本当に身近な妻や甥（N氏の父上）にだけ、この話をしたという。というのも、M氏は自分を派遣した薩摩電気に石碑の場所と図面を添付した報告書を作成して提出したが、薩摩電気はM氏に硬く口止めした後、顕著な動きを見せなかったという。しかし、後年にM氏が耳にしたのは、彼の報告書は当時の軍部に没収された上で薩摩電気もまた硬く口止めされたということだった。

昭和五年から六年にかけて、島内に発電所が建設されて通電が開始されたということであるから、鉄塔建設時に大勢の作業員が「神武天皇御墓」の存在に気づかなかったからには、すでに、その時まで「何者か」がその石碑を撤去していたことになる。

―消えた墓―

神武天皇のお墓が紛れも無く下甕島に存在したという歴史的事実に当時の軍部がどのように対処したかは容易に想像できる。第二次世界大戦後のいつだったかは、正確には知らないが、鹿児島大学の教授に引率された学生数十名が：誰から聞いたのか：下甕島へやってきて数日間下甕島の山中を探し回ったそうだが、「神武天皇御墓」はついに発見できなかったのだという。発見者である大叔父に連れられて何度も現場へ行ったことがあるN氏の父上は後日この話を聞いて、「なぜ俺に聞きに来なかったのだろう。その場所まで連れて行ってやったのに」と、つぶやいていたことが子供の頃のN氏の記憶に残っているという。

こうして「神武天皇御墓」は幻のものとなった。それにしても誰が、いつ、何のために、そんな石碑を建てたのか…。

―続く―

社員投稿欄

事務室からの伝言

大堀 亮

現在の仕事に就きあつという間に五年が過ぎました。私が入社当時は介護職として職務について、まったくの未経験者でしたが、周りの先輩がたの指導のもと、一日何か一つずつでも吸収して頑張ろうと励みましたがいまでは懐かしい日々となりました。そうしてまた、人生の大先輩でもある利用者様と毎日触れ合い、多くの貴重なお話を聞かせていただいたり、時には励まされたりで、元来お世話をする仕事だと思っていたのに、すっかり自分自身の精神が逆に皆様からお世話を頂いていることを有難いと思うようになりました。

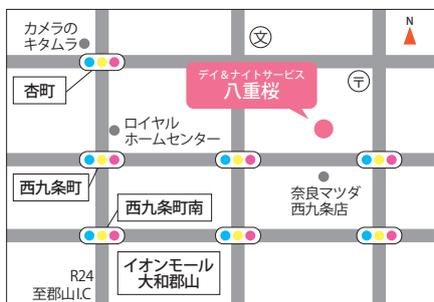
今では現在の事務職に移動してこの職務の方が長くなりました。以前のように直接利用者の方々とは触れる機会が少なくなっていますが、事務局のガラス越しに今までと違った角度から利用される方々の目線や立場で考え、どうしたら皆様により喜んで頂けるだろうか、と毎日思考をめぐらせております。その第一歩として目指すべきことは、利用者の方々から、数あるデイサービス施設の中から「八重桜」を選んでよかった、と思ってもらいたいと考えています。

今後ともスタッフ共々、色々知恵をしばって「豊かであつ心地良い充実の時間の創造」に向けて鋭意取り組みんでゆきたいと考えています。



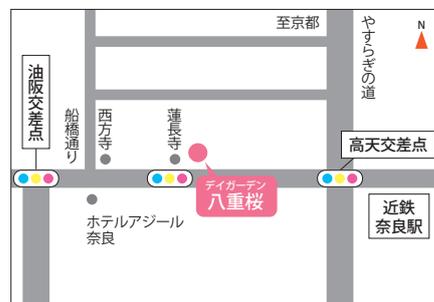
- 公的介護保険指定事業
 デイサービス八重桜(一般通所介護)
 デイハウス八重桜(認知症対応型通所介護)
 居宅介護支援事業所 八重桜
- 自主事業 ステイケア八重桜(短期宿泊所)

〒630-8113
 奈良市法蓮町410番地の2
 TEL:0742-20-7205 FAX:0742-20-7201



- 公的介護保険指定事業
 デイ&ナイトサービス八重桜
 (一般通所介護)

〒630-8453
 奈良市西九条町2-4-3
 TEL:0742-63-5670
 FAX:0742-50-0277



- 公的介護保険指定事業
 デイガーデン八重桜
 (小規模通所介護)

〒630-8247
 奈良市油阪町423
 TEL:0742-93-9080
 FAX:0742-93-9081